

平成 3 1 年度 県立水戸工業高等学校自己評価表

目指す学校像	◆ 歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守り，充実したキャリア教育・職業教育を 実践し，自ら考え，行動できる力を育む教育を目指すとともに，時代の流れを掴み，対応できる能力を備えた科学 技術者・技能者を育成する模範校を目指す。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状 況
成果 就職内定率 100.0%(198/198) 進学者合格率 98.2%(111/113) (31年3月31日現在)	学力向上対策とアクティ ブ・ラーナーの育成に努め る。	①全ての教員が，アクティブ・ラーニングの視点による主体的で，対話的 で，深い学びができる「動く授業」を実践できることを目標とする。「わか る授業」の実践を目指し，多くの生徒が自らが学ぼうとする姿勢が出てくる 学習内容を追究する。	B
ジュニアマイスター認証 68名 (ゴールド30名，シルバー38名 で平成28年度より 2 名増加 このうち 5 名が特別表彰)	挨拶の励行と身だしなみを 整え，基本的な生活習慣の 確立と規範意識の育成に努 める。	②「道徳」及び L H R，特別活動の学校行事等の時間全体を有効的かつ効率 的に活用し，時と場所，場合に応じた方法・態度・服装等を自ら考え，行動 できる人材育成に努める。	B
課題 国公立大学合格者が平成29年度 より増加しているが，進学を意 識した学習指導体制づくりが課 題	ものづくり教育の充実と健 康な心身の育成に努める。	③これを学び，身に付けると，「何ができて」，「どのようなことに生か せるのか」を明確に自覚できる教育内容の「見える化」を追究する。基本的 な生活習慣の指導徹底を実践し，「遅刻者のない学校」を目指し，健やかな 体をつくるとともに，部活動の活性化を図ることで精神を鍛え，中堅技術 者としての心構えを育成する。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る	授業規律を意識し、人の話を聞き、自分の考えを述べる対話的な学びを目指す。 定期的にノート・課題を確認し、指導する。また、考查結果などをもとに、課外授業や課題などで成績不振の生徒に個別に指導する。	①	A	授業を通して基本的な知識や読解力、記述力、思考力を高めるとともに、話し合いや対話的な学習を計画的に行う。
		自学自習の習慣をつける	問題集等の自習範囲を予告し、小テスト等で確認する。 辞書や便覧、新聞、図書館の本などの情報や知識の選択の仕方を具体的に示し、主体的な学びを実践させる。	②	A	
		進路実現のための就職、進学へのサポートをする	3年生の国語表現の授業などで進路に応じた表現指導に努めるとともに、新聞等を活用し、広く社会に目を向ける習慣を養わせる。 国語科の中だけではなく担任等とも情報交換を行い、教科内で授業研究の場を設け、3年間を見据えた深い学びを目指し指導を行う。	①	A	
				③	A	
教科	地理・公民	基礎学力の向上を図る	毎時の授業においてノートをきちんととらせる。学習課題を与える。それらを2回以上提出させ、チェック、アドバイス、評価を行う。	③	B	調べ学習、テーマ学習など主体的・対話的学習に努める。
		地理・歴史への興味・関心を高める	高校講座等視聴覚教材・インターネットを活用し、クラスの80%の生徒が観点別評価の興味・関心・態度において、Aをとれるよう目指す。	①②	A	
		主体的で、対話的で、深い学びの授業実践	近現代史を中心とした世界史を学ぶことで世界史的視野の中での、日本人としての生き方を考えさせる。興味ある事柄・人物などを調べさせる。 作業学習や課題追求学習の時間を20%実施し、国際社会や現在の日本の地理的認識や表現力を向上させる。	②	B	
				①③	A	
教科	数学	基礎基本の定着	基礎基本の定着のため、必要に応じて小テストや復習プリントを行う。また、長期休業中には課題を与え、その確認のテストを行う。 定期考查ごとに成績不振者(学年の8%以内を目標とする)に追試験や補講を行い、復習をさせる。	①	B	授業前に生徒へ呼びかけて授業準備を徹底させる。今年も実施していたが、来年も継続して個別指導を実施する。大学入学テストの情報収集と対策の研究。
		授業態度の育成	授業開始前に教科書・ノートを準備するように指導する。 授業中の制服用用を徹底する。	②	A	
		進学へのサポート	進学課外では、国公立大や茨城高専の入試出題傾向を分析し、合格に向けての指導をする。 大学等の合格者に対して、大学での授業に対応できるように補習を行う。	①	A	
				②	B	
教科	理科	基礎学力の向上	必要に応じて(一月に一回以上)生徒実験や演示実験を実施し、対話的で深い学びができる授業を展開する。 考查ごとにノートやレポートを期限以内に提出するように指導する。	①	B	授業を通して基本的な生活態度を養うことは来年度も継続する。自然の事物や現象を取り上げ、より主体的・対話的学習が出来るように取り組む。
		科学技術と社会問題の関連等の認知及び応用力の育成	原子力発電などをとおして、先端技術と環境の問題等を取り上げて、将来の職業をきちんと考えるきっかけを与える。 進学課外を実施し、進学を希望する生徒の進路実現に向けて、応用力を養う。	①	A	
		授業態度の育成	授業を通して基本的マナーを指導する。 レポートや宿題を課して、学習に取り組む姿勢を養う。	③	B	
				②③	A	
教科	保健体育	主体的で、対話的で、深い学びの授業実践	授業を通して基本的マナーを指導する。 レポートや宿題を課して、学習に取り組む姿勢を養う。 アクティブラーニングの時間を20%実施する。	①	A	保健授業と関連づけ、自らの体力を高める力を育てるとともに、マンスポーツの確立する。ALの実施結果を更に生かすため、結果を積極的に活用する。
		基礎体力の向上	保健授業と関連づけ、自らの体力を高める力を育てる。また、マンスポーツを1種目以上確立する。 毎時間集団行動を実施し、挨拶・服装指導を通して高校生としての態度を身につけさせる。	③	A	
			健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。毎時間の補強運動を通して体力テストの評価がD・Eの本校生徒の割合を10%未満にする。	②	A	
				③	A	
教科	美術	美術を愛好し、美しいものに素直に心から感動できる感性を養う	授業で制作した作品の展示を校内・校外で年3回程度行うとともに、全国レベルの各種コンクール・コンテストに生徒作品を年3回程度出品し上位入賞・入選を目指す。	②	B	班単位の共同作品の課題を多く取り入れ、そのなかで対話を通して作業を進められるような作品づくりや発表・鑑賞会を計画し、実行する。
		学校行事(クラスマッチ、修学旅行等)と関連させながら課題に取り組ませる	特に修学旅行先に関する文化や伝統を教科と関連させながら学習させ、高校で初めて触れる油彩画の道具、用具の使い方の基礎を習得させる。	②	B	
教科	英語	基礎学力の定着	英単語の小テストを各学年、年間8回実施し、語彙力の定着を図る。3年間で英単語帳1冊3,000語を学習することになる。 授業を大切にし真摯な態度で取り組ませるほか、ノートテイクや音読、ディクテーションなどの諸活動への積極的な参加を促す。 成績不振者に対しては、定期考查前等に補習を行うことで既習事項の定着を図る。	③	A	ICT環境の整備
		基礎学力の向上	英検級別の課外を実施し、目標をもって学習することで、学力向上を図る。	①	A	
			3年生の希望者に対しては、入学・入社試験に対応できる学力をつけるため、個々の進路にあった内容で補習を実施すし、進路の実現を目指す。	②	A	
		指導内容の充実	ALTやICTを活用して「わかりやすい授業」を実践するとともに、生徒が生きた英語に触れる機会を増やす。	②③	A	
				①	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	家庭	事故防止と安全指導に努める	実験・実習における事故防止のため管理徹底、施設等の衛生管理の強化を図る。	①	A	A
		指導方法の改善充実を図る	授業に興味・関心を高めさせるため、指導内容を点検し、指導方法の改善に努める。	②	A	
			学習の理解度を把握するためにプリントの工夫をし、不十分な生徒へは補習を実施する。	②	B	
工業科	工業化学科	基本的生活習慣の確立	担任や他の教科担当者・保護者との連絡を密にし無断欠席、遅刻、早退をなくす。	①	B	B
			高校生としての言葉使いやマナーを身につけさせる。	①	B	
		基礎基本の充実	日々の授業を通して基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、生徒一人一人の学力向上を目指す。	②	A	
			実習に対する重要性を理解させ、欠席や公欠などで実施できなかったところを後日補習する。	②	A	
		進路への意識を高め進学・就職全員合格を目指す	様々な機会を通して進路に関する情報を提供し、進路決定への意欲を高める。	③	A	
			面接指導を計画的に実施する。	③	B	
工業科	機械科	機械科にふさわしい進路指導の実現を目指す	授業規律を確立・維持し、授業をしっかりと受けさせる。	①	A	B
			高専や大学の入試傾向を把握し、機械科としての課外を計画実施する。	②	B	
			進学や就職に対応した面接指導を行う。	③	A	
		資格取得を奨励し、生徒の技術向上と向学心の育成を図る	機械科として目標とする資格試験を精選し試験日程に合わせた補講計画を組む。	②	A	
			年度当初に、機械科として目標とする資格試験や試験日程等を紹介し、生徒に目標と向上心を持たせる。	②	A	
		高校生としてのマナーを身に付けさせる	管理室への出入りや教職員への言葉遣いなどのマナーを指導する。	③	A	
			頭髪や服装の乱れを指導する。	③	A	
		本校の今後の方向性を検討する	今後の本校の在り方や機械科の実習等について話し合い、検討する	①	B	
			機械科のカリキュラムについて検討する。	①	C	
工業科	電気科	基本的生活習慣の充実	実習始めの集合時間(5分前行動)を厳守する。遅刻・欠席をなくす。	①	A	A
			報告書提出の期限を厳守する。	①	A	
		資格取得の推進	基礎的な資格取得及び高度な資格取得を目指す。	②	A	
			課外指導を充実させる。	②	A	
		安全教育の徹底	実習時の頭髪服装等の指導をする。	①	A	
			実習終了時の整理整頓を徹底させる。	①	A	
		自己変革力を身につけさせ、変化に対応できた進路指導の実現	将来の進路を考えて選択出来るよう指導する。	③	A	
			進学・就職希望者に対応したきめ細かな指導を行う。	③	A	
工業科	情報技術科	基礎的な生活習慣の確立	高校生としてのマナーを身につけさせる。	①	A	A
			日常生活や学習行動をととして個別に生活指導を行う。	①	A	
		学力の向上、資格取得の推進	基礎的な学力を身に着けさせ、社会人としてふさわしい生徒に育てる。	①②	A	
			資格試験に合わせ、生徒の能力にあった指導を行う。	②	A	
		進路指導の充実	生徒が目標とする進路の実現に向け、個別に対応する。	③	A	
			面接指導・学力指導を早い時期から行い、実践的な能力を身につけさせる。	②③	A	
		広報活動の充実	ホームページ等で情報技術科の生徒の活動を中学校に広報する。	①②③	A	
			進学先や就職先に対して、積極的な広報活動を行う。	③	A	
工業科	土木科	専門教科・科目に重点を置きその課程の特色を明確にする	生徒が興味を持って学習に取り組めるような授業展開を図る。生徒が熱意を持って授業に臨めるよう指導を充実させる。新しい知識・技術の導入を図る。	②	B	A
		実験・実習の重視	周到な準備を心がけるとともに結果が想定以外の場合には、その原因を追及し究明させる。施設・設備の充実や指導者の養成に努める。安全教育を徹底し事故防止に努める。	①②	A	
		生徒の職業指導	生徒の適切な進路選択、適応のため組織的継続的な職業指導を行う。	③	A	
		建設系技能資格取得	土木施工管理技術者をはじめとする建設工事における技術者の資格取得を目指す。	②	A	
工業科	建築科	基本的な生活習慣や道徳心を高める。	挨拶の習慣や高校生としての言葉遣いを身につけさせる。欠席・遅刻・早退を減らす。	①	A	A
			授業を受ける姿勢と心構えをきちんと持たせる。	①	A	
		基礎学力の定着を図り、製図、実習、課題研究などの体験学習を充実し建築技術の向上を図る。	基礎学力の定着をはかるため、定期テスト・小テスト・ノート点検のほか課外を随時実施する。資格取得の指導を積極的に実施する。	②	A	
			自主設計・基本的な実験・木材加工・建築模型組み立て等を通じて、建築技術の習得・ものづくりの心を磨く。	②	A	
		進路指導の充実を図る。	早期より進路意識を高めさせ、面接指導などの充実を図る。	③	A	
			学年や進路指導部との連携をはかり、就職・進学内容の質的向上をはかる。	③	A	

・実習の充実
・資格取得の推進

・これまで、認定校の卒業者は実務経験3年の後建築士の受験資格となっていたが、今年より卒業した7月に受験可能となった。そのことから、資格検定の受検を精査して取り組み、建築士受験を踏まえた授業展開を検討。

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
校務分掌	校務部		各学科、教科、校務分掌間の情報の共有化と円滑な連携を図る。	①	A	A ・令和4年度新教育課程の構築、令和3年度の2.3年生の家庭科授業を踏まえた時間割の作成（人員配置等管理職へ相談） ・定期考査の運営変更、学校公開の運営の検討
		校内の円滑な情報交換と連携	学校行事の調整による円滑な実施と十分な授業時間の確保を図る。	①③	A	
			情報システム部と連携を密にして校務支援システムにより成績処理等が円滑に移行されるように最善を尽くす。	①	A	
		積極的な学校情報の発信	学校説明会、学校公開や中学校での高校説明会などの機会を積極的に活用して、中学生、その保護者および中学校の先生方に本校の特色や魅力を理解してもらう。	①	A	
			学校案内や入学案内等の資料を積極的に活用し、外部へのアピールを図る。	①	A	
		教育活動の活性化	新教育課程に向けて研究・検討を始めより良い教育課程の完成を目指す。	①	A	
校務分掌	生活指導部		欠席、遅刻、早退等の生徒情報を全員で共有し、指導の工夫を図る。	①	A	B ・あいさつ運動や登校指導、頭髪服装指導をとおりて、生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・自転車点検や立哨指導を行うことで、交通事故防止および自転車の運転マナー向上を目指す。 ・鍵と貴重品の管理に注意し、盗難の防止に努める。
		学習環境の整備	積極的に授業に取り組む姿勢と自ら学ぶ態度を身につけさせる。	①	A	
			備品、環境整備等の充実を図り、全職員が健康的に働きやすい環境作りに努める。	①	A	
		家庭と協力して基本的な生活習慣の確立に努める	あいさつ・登校指導を年間5回実施し意識の高揚をはかる。	①②	A	
		盗難のない安全な環境整備に努める	自転車の鍵や教室・個人ロッカーなどの施錠の徹底を図る。	①	B	
		身なりを整える	巡回を行い、鍵の確認をする。	①	B	
校務分掌	進路指導		月1回の頭髪服装検査を行う。全職員で共通理解のもと、実施に当たる。	①②	B	A ・多様な進路希望の実現に向けて求人開拓を行いたい。 ・大学入試共通テストについての情報の収集、準備が必要である。
		交通安全教育に努め事故防止を図る	家庭と連携しながら、指導に当たる。	①②	A	
			自転車の安全点検を年間2回、ステッカー点検を年間5回行い、自転車の安全運転の徹底を図る。	①	A	
			立哨指導を随時行い、交通事故の防止を図る。生徒の年間交通事故件数ゼロを目指す。	①	B	
		キャリア教育の推進	各学年と協力して進路ガイダンスや道德の授業をとおりてキャリア発達を促す。	③	A	
			基礎学力の充実や社会人基礎力の育成に努める。	①③	B	
校務分掌	特別活動部		企業訪問等をとおりて求人開拓に努める。	③	A	A ・生徒会室の使用状況があまり良くないため、時間を制限して使用するようにしたい。 また、私物化させない。
		就職指導の充実	企業情報等の提供をとおりて、学力の向上や資格取得への動機付けを行う。	②③	A	
		進学指導の充実	大学・高専を目指す生徒への確な情報の提供と、学校選択に関するアドバイスを行う。	③	A	
			指定校枠の獲得等のため積極的に大学・専門学校訪問を行う。	③	B	
		進路情報の提供	水戸工業高校に対する理解を深めてもらうために、進路情報を積極的に中学校へ提供する。	③	B	
		生徒会活動の充実	委員会活動や生徒会活動を通し、生徒の生徒会活動（本部・各種常置委員会）への参加及び意識を高める。	③	A	
校務分掌	厚生部		顧問会議・生徒中央委員会などを通し、部活動を運営する上で生じてくる問題点を把握し、充実した活動ができるよう支援する	③	B	A ・生徒の委員会（保健委員会、美化委員会）活動の活性化を図る。 ・厚生部主体の行事を円滑に行えるように工夫する。
		部活動の充実	各部のキャプテンを中心に部室や活動場所の整理整頓を促す。（長期休業前など）	③	A	
		生徒の心身の健康を図る	様々な悩みを抱える生徒に対し、相談活動に努める。心身両面に渡るサポートをする。	①	A	
			特別支援教育委員会と協力して、必要とする生徒が適切な支援を受けられるようにする。	③	A	
		学習および生活環境の整備を図る	校舎内外の清掃の徹底を図り、快適な学校生活を遅れるよう環境を整える。	①	B	
			在校生および進学予定者に奨学金制度の周知徹底を図り、生徒の進路実現において、経済面で支障が生じないように助言や指導をしながら、支援をする。	③	A	
校務分掌	学習指導部		成績不振者課外を年4回計画し、各教科担任に実施してもらう。（前期中間考査後、前期期末考査後、後期中間考査①後、後期中間考査②後）	②	A	A ・新テスト導入により、生徒の自学自習を支援する。 ・校内及び外部講師による課外を充実させ、進学者の学力を向上させる。 ・家庭と連携して資格取得の向上を図る。
		基礎的な学力の定着と、学習意欲の向上を図る	資格試験の受験日程などの情報を提供し、資格取得の推進をする。	②	A	
			進学課外の計画を立て、各教科（国、数、理、英、他）の協力を得て実施する。大学等への進学の手助けをする。夏季課外も計画・実施する。	③	A	
		学力の向上を図り、進路指導と結びつける	外部講師による進学補習課外を計画・実施する。また、ベネッセ実力診断テストなどの外部模試を学年と連携して計画・実施する。	③	B	
		担任との連携を密にし、保護者に資格試験などの情報を提供する	学習意識調査を生徒に実施する。クラス毎の結果も提供し、担任に面談などで活用してもらう。また、資格試験の取得状況の調査結果などを全職員に提供する。	①	A	
			保護者に学習意識調査や資格試験の取得状況などの情報を伝えるために、年2回程度保護者へ配付するプリントを作成する。	①	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
校務分掌	図書視聴覚部	主体的、対話的で深い学びを支える機関として、あらゆる教育活動に対応した活動を実施	様々な形態の授業利用に対応できる環境整備、資料収集を行う。また、レファレンスも重点的にを行い、生徒の学習や教員の調査研究に役立つよう務める。 読書推進及び学習や情報利活用可能な機関としての図書館活動を有効に広報するため、あらゆる媒体を活用して情報を発信する。	①②	A	A 各科や教科との連携を深めるための工夫をする ICT環境の不足
		図書委員会・放送委員会の活性化	図書委員会は、読書推進活動として、館内外問わず積極的に活動する。また、各種研修会に積極的に参加し、資質向上を図る。 放送委員会は、校内放送活動を意欲的に行う。図書委員会とも連携し、効果的な情報を提供する。	①②	A	
		視聴覚機器による教科支援と校内活動の充実	視聴覚機器の整備・点検と設備の充実、視聴覚教材のリスト更新を図るとともに、利用方法を周知し、積極的利用を促す	③	A	
			ファイルサーバの管理・運用を適切に行う。	③	A	
			各所のPCの保守・管理、校内LANの保守・管理を適切に行う。	③	A	
校務分掌	情報システム部	校内LANの管理・運用を行う	成績処理を正確に行うための援助をする。	①	A	A 教室PCの整備を順次進めてICT環境の改善に努めたい
		校務支援システムの運用支援を行う	成績処理システムの安全性の向上に努める。	①	A	
		情報発信の改善・運用を目指す	HPの充実に努め、積極的に本校からの情報発信を行う。	②	A	
			各分掌・教科からの情報発信を援助する。	②	A	
		ICT教育の援助を行う	生徒セグメントの環境整備に努める。 ICT教育の援助に努める。	③ ③	B B	
校務分掌	庶務部	P T A 活動の充実	一般会員の活動意欲を向上させることにより P T A 活動を充実させる。また、そのために合同評議会を実施する。 研修教養委員会・広報委員会・生活指導委員会活動のさらなる充実を図る。 「P T A 後援会合同会報」を発行する。	③ ③ ③	A A A	A 今年度は合同研修会の参加人数が定員に満たなかったの で、次年度は魅力ある企画を計画する。
		P T A 組織と後援会組織の連携	学校庶務・P T A 役員・後援会役員の連携により、合同総会・研修旅行・文化祭応援などの行事を行う。 P T A と後援会の調整を図る。	③ ③	A A	
	学年	第1学年	基礎学力の向上を図る。	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。 学年一斉の基礎学力テストを実施することによって、学習意欲を高めさせる。	① ①	A A
			専門教科の学習の充実を図る。	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。 各学科の内容をしっかりと認識させ、将来の進路を考えさせる。	①② ②	A B
			基本的生活習慣の確立を図る。	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。 家庭等との連絡を十分にを行い、また個人面談等を実施、きめ細かく指導する。	③ ③	A A
			自他を大切にし、豊かな心を育てる。	L H R や「道徳」等を利用して、他人を思いやる心の育成に努める。 清掃やHR等を通して、物を大切にすることを育てる。	③ ③	A A
学年	第2学年	基本的生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。 家庭等との連絡を十分にを行い、また個人面談等を実施し、きめ細かく指導する。	③ ③	A A	A 修学旅行も何事もなく、無事に終了することが出来た。 生徒個々の進路実現が出来るよう、面談・指導を徹底して行っていく。
		基礎学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。 学年一斉の基礎学力テストを実施することによって、学習意欲を高めさせる。	① ①	B A	
		専門教科の学習の充実を図る	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。 各学科の内容をしっかりと認識させ、将来の進路を考えさせる。	①② ②③	A A	
		進路指導の充実を図る	年間2回の実力テスト、年間3回の進路ガイダンス、12月～1月にかけて実施する就業体験等の機会をとおして進路に対する意識の高揚を図る。 HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。	③ ③	A A	
		自他を大切にし、豊かな心を育てる	道徳プラス等をとおして、他人を思いやる心の育成に努める。 清掃やHR等をとおして、物を大切にすることを育てる。	③ ③	A A	
学年	第3学年	基本的生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。 家庭等との連絡を密に行い、また個人面談等を実施し、きめ細かく指導する。	③ ③	B A	A 生徒は進路の実現に向けて、意欲的に取り組んだ。しかし、進路決定後、学習意欲が薄れ、遅刻などの生活態度の乱れがみられた。
		学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。 進路の実現に向けて、成績向上への努力の大切さを教える。	① ①②	A A	
		専門教科の学習の充実を図る	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。 進路を考え、就職後に役立つ技能や技術を身に付けさせる。	①② ②③	B A	
		進路指導の充実を図る	進路ガイダンや適性検査等の様々な機会をとおして進路に対する意識の高揚を図る。	③	A	
			HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。 進路決定後、社会や大学等での心構えやマナーについての指導を行う。	③ ③	A A	